

3

Annual Report 2015

# 各部

看護部

薬剤部

放射線技術部

臨床検査技術部

臨床工学部

リハビリテーション部

栄養管理部

感染制御部

医療安全管理部

臨床研究管理部

事務部

医療事務課

医局秘書課

資材課

施設課

システム開発室

総務室・財務室・人事管理室・広報室

地域医療連携センター

健康管理部

# 【看護部】

看護部は働きやすい職場環境作り、ワークライフバランス・キャリアアップを視野に入れた看護部体制作りに取り組んでいます。また、看護師一人ひとりの力が質の高い看護提供に繋がると考え、教育体制の充実やモチベーションアップのための仕組みを作っています。個々の看護師の専門性を活かした自律した活動展開は、地域の患者様に質の高い看護を提供する役割を担っています。他にも専門の講師を招き看護研究、看護に関する学習会を定期的に行い、専門職者としての知識技術習得に努めています。

2015年度看護部実績を中心に、「新人教育プログラム」「ラダー別教育プログラム」「法人内認定看護師活動」「看護外来の件数」「重点事項」などの詳細を項目別に報告します。

## 主な施設基準

7対1入院基本料  
急性期看護補助体制加算(25:1)5割以上

## 職員配置および有資格者

### ■看護職員数および配置

2016年3月31現在

		3階西 病棟	3階東 病棟	3階南 病棟	4階西 病棟	4階東 病棟	4階南 病棟	5階西 病棟	ICU HD	手術室	外来	DM・RA センター	看護 管理室	合計
常勤	看護師	27	25	25	26	27	27	30	40	23	14	4	4	272
	准看護師	0	1	1	0	0	0	0	2	0	2	0	0	6
非常勤	看護師	2	3	2	4	4	1	8	6	1	14	9	3	57
	准看護師	2	—	0	3	0	1	2	2	1	4	0	1	16
合計		34	31	31	33	33	31	44	54	25	34	13	8	371
常勤	ヘルパー	0	1	1	1	1	5	1	0	0	1	0	0	11
非常勤	ヘルパー	3	3	3	2	3	1	4	3	2	0	0	3	27
	アシスタント	1	1	1	1	1	1	4	0	0	17	10	1	38
合計		4	5	5	4	5	7	9	3	2	18	10	4	76

\*合計は長期休養者(育休・病欠)を含みます。

### ■常勤および新人看護師の離職率

過去5年間の離職率は以下に示す通りです。2014年度より新人看護師の離職もなく、常勤看護師の離職も減少しています。

	常勤看護師離職率(全国平均)	新人看護師離職率(全国平均)
2011年度	9%(11.2%)	17%(8.1%)
2012年度	10%(10.9%)	4%(7.5%)
2013年度	7%(11.0%)	10%(7.5%)
2014年度	10%(10.8%)	0%(7.4%)
2015年度	5.2%(調査未)	0%(調査未)

## ■認定看護師の紹介および役割

現在、6領域にて9名で活動しています。2015年度は、福岡県看護協会にて「皮膚排泄ケア」教育課程を1名が修了しています。5年ごとの更新を行い、最新の情報と看護を提供しています。



認 定 名	取 得 年	教 育 機 関
緩和ケア	2005年8月	日本看護協会 神戸研修センター
感染管理	2007年7月	
緩和ケア	2009年7月	久留米大学医学部認定看護師教育センター
がん化学療法看護	2010年6月	
がん化学療法看護	2010年6月	
脳卒中リハビリテーション看護	2011年7月	熊本保健科学大学
救急看護	2014年7月	九州国際看護大学
集中ケア看護	2014年7月	西南大学
集中ケア看護	2014年7月	神奈川県立保健福祉大学

### ①緩和ケア認定看護師 福田 富滋余 桃田 美智

緩和ケアは、病気とともに生きる患者さんが、つらくないように病気と付き合っていく方法を家族・患者さんとともに考え、心と身体、生活をサポートしていくケアです。がんなどの疾患に対し、病気そのものや治療に伴うさまざまな苦痛を和らげ、QOL(生活の質)を維持・向上することを目的とし、治療早期から最期の時まで主治医・担当看護師・緩和ケアチームとともに支援します。

### ②感染管理認定看護師 奥田 聖子

「白十字グループに関わる全ての人を感染から守る」を使命とし、感染防止に取り組んでいます。定期的に流行する風疹や麻疹ですが、当院は以前より抗体獲得に取り組んでおり、感染を受けない、感染源にならないような体制を作っています。

### ③がん化学療法看護認定看護師 辻 かよ子 原田 里香

がん化学療法に特化した知識と技術をもとに、安全な投与管理、副作用症状のマネジメント、患者さんがセルフケアできるような支援を行うことが求められています。また、看護スタッフの指導・相談を行うとともに、自己の臨床実践能力を向上し、がん化学療法看護の発展に貢献していく役割があります。『がん化学療法を患者さん・ご家族が安心して安全に安楽に受けられるとともにがん化学療法に携わるすべてのスタッフが安全に安心して看護ができる』ことを目標に活動を行っています。

### ④脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 山口 淳也

現在、脳卒中は死因の第4位ですが日本人寝たきり疾患患者の第1位を占め、また人口の高齢化とともにさらに患者数の増加が予想されます。脳卒中リハビリテーション看護認定看護師は、発症直後・超急性期から脳卒中患者の病態予測を行い、重篤化を回避するためのモニタリングやケアを行い廃用症候群予防・家族を含めた退院支援・再発予防に努めていきます。

### ⑤救急看護認定看護師 谷口 拓司

救急看護の対象は、年齢・性別・疾患・重症度などを問わず突発的に発症した患者やご家族を含め、さまざまなライフステージの人々が救急看護の対象となります。そのような中で、危機的状況にある患者さんの救命処置やご家族の精神的ケアなどの幅広い看護実践が求められます。救急看護認定看護師の役割として、臨床現場において、実践・指導を行いながら院内の救命技術研修等の活動を行っています。また、地域への救急医療の貢献に向けた活動を行い、救急看護・医療の質向上に努めていきます。

⑥集中ケア認定看護師 牛島 めぐみ 廣瀬 友美

集中的な治療と看護を要する患者さんとそのご家族を対象に、質の高いケアを提供できるよう全身管理を行っています。できるだけ早い社会復帰ができるように、また、患者さんの「その人らしさ」を大切にしているよう、的確な情報収集と判断を行い、回復を促進させられるケアを提供していきます。

■学会認定看護師

専門学会認定看護師の資格取得を支援しています。資格取得後は、院内での看護実践、地域への講演活動などにおいて、看護の質向上に努めています。

2016年3月31現在

認 定 名	人数	認 定 名	人数
消化器内視鏡技師	7名	透析技術認定士	3名
日本糖尿病療養指導士	12名	呼吸療法認定士	3名
リウマチケア看護師	7名	I V R 看護師	3名
一次救命処置認定看護師(BLS)プロバイダー	63名	骨粗鬆症マネージャー	2名
一次救命処置認定看護師(BLS)インストラクター	3名	糖尿病重症化予防(フットケア)	4名
一次救命処置認定看護師(ACLS)プロバイダー	43名	弾性ストッキングコンダクター	3名
I S L S プロバイダー	26名		

認定看護管理者教育課程修了:ファーストレベル22名、セカンドレベル6名、サードレベル1名

看護管理者育成も日本看護協会の看護管理教育課程を毎年計画的に受講し、看護の質向上に向けて各部署の看護管理を行っています。

法人内認定看護師

法人内にて、1年の教育期間を経て、認定看護師や学会認定看護師・診療部などの講師より講義や活動の支援を受けながら資格を取得し3年で更新します。2014年度からは「脳卒中リハビリテーション看護」を開始し2015年度の審査会を経て、6月より活動を開始しました。

認 定 部 門	認 定	2015年度受講者	認 定 部 門	認 定	2015年度受講者
説明支援ナース	8名	2名	N S T	6名	1名
皮膚ケア	8名	2名	がん化学療法	3名	0名
緩和ケア	5名	0名	ケア技術指導者	2名	1名
感染管理	7名	0名	脳卒中リハ看護	6名	0名
			合 計	45名	6名

看護部の活動報告

■地域共同学習会および院外新人看護師研修・出前講座

認定看護師・法人内認定看護師・学会認定看護師が中心となり、地域医療機関や院外新人看護師を対象とした研修会を実施しています。出前講座では、「糖尿病」「感染管理」「看取りケア」「脳卒中リハビリテーション看護」「ケア技術として、食事姿勢」などを開催しています。



多施設合同 新人看護師研修

開 催 日	タ イ ト ル	担 当	院内	院外	合計
2015年 7月 2日 2015年 8月10日 2015年11月 5日 2016年 3月24日	感染対策新人研修 ～知っておきたい基本～	感染制御部 課長 感染管理認定看護師 奥田 聖子	35名	51名	86名
2015年 7月17日 2015年 8月10日	救急救命処置 ～私は何をする人?～	手術室課長 中尾 益代 外来/救急外来看護課 救急看護認定看護師 谷口 拓司	17名	9名	26名

地域共同学習会

開 催 日	タ イ ト ル	担 当	院内	院外	合計
2015年 9月19日	病院で流行しやすい感染症の基本的な感染対策について	感染制御部課長 感染管理認定看護師 奥田 聖子	0名	28名	28名
2015年10月 3日	褥瘡予防と栄養管理について学ぼう 最新の体圧分散とポジショニング方法について	法人内認定皮膚ケアナース	0名	44名	44名
2015年11月28日	あなたも私もらくらく介護シリーズ 第5回 ～ポジショニング編～	法人内認定ケア技術指導者 (白十字会各施設より)	1名	28名	29名
2015年12月 5日	知っておきたい! 糖尿病基礎知識	糖尿病リウマチ膠原病センター 主任 野口 早百里 病棟看護師 主任 松山 典子 病棟看護師 池田 直美 *3名共に日本糖尿病療養指導士	2名	11名	13名
2016年 3月12日	看護がつながる・看取りケア ～心豊かな最期のケア「エンゼルケア」を 一緒に考えませんか～	<日本看護協会助成 看護職連携構築モデル事業および 佐世保看護連携推進委員会共催> 緩和支援課 緩和ケア認定看護師 福田 富滋余 法人内認定緩和ケア看護師(白十字会各施設より)	11名	34名	45名

## ■看護外来実績

認定看護師・法人内認定看護師・学会認定看護師が中心となり、市民・患者・家族・地域医療機関のスタッフを対象に相談・指導などを行っています。2015年度の実績は右記のとおり合計1,701件でした（\*9月の市民公開講座の対応数も含む）。

看護外来名	合計
皮膚ケア	230
下肢静脈	273
がん支援	710
女性の為の尿失禁	2
禁煙	11
脳卒中リハビリ看護	53
糖尿 病	400
ハイパーサーミア	22
合計	1,701

## ■新人看護師育成

17名の新人看護師は、人事本部からの研修を2日間、看護部の集合教育3日間を受け、各部署へ配置されます。4月は毎日午後より新人看護師は研修室で集合教育を受けます。5月からは年間教育プログラムに沿った毎月の研修と、各部署での看護技術指導があります。2013年度末に購入した「高機能シミュレーター」を用いての研修では、呼吸音聴取や呼吸器装着のアラームに対する対応をチームで行うなどの学習を行いました。



## ■ラダー別研修プログラム

「人材育成」「人材活用」「能力評価」を目的として、ラダー制を導入し、多くの研修を行っています。看護職務の内容と看護職に求められる能力を規定したキャリア開発の設計図であり、活用することで各自の役割認識を高め、患者さんに対して質の高い看護を提供できます。個人の申し出により、下記の臨床ラダーを用いて、個人のキャリア開発を推進しています。2015年度は、各ラダーの業務改善企画から実践、評価、他部署訪問などの研修を取り入れ、各部署の活性化につながる学習を行いました。

### 2015年度 ラダー別研修プログラム

目標	ラダーII	ラダーIII	ラダーIV	ラダーV	ラダーVI	ラダーVII	全体研修	看護研究
・チェックリストの確認 ・自分の看護を振り返る		探してみよう自分の役割、あなたに求められるリーダーシップを理解する	・ケーススタディに取り組む	・他部署を訪問し、自部署の業務改善に取り組む	自部署の弱み強みを再認識し、もっと働きやすい職場にする	PNS導入に向けて学習及び計画を立てる		
	4月	(3/18ポスター配布) 4/20参加締め切り 4/21事前課題配布 4/15日時・振り分け		4/22:39名 部門訪問の目的目標について説明	他部署留学 日程配布	PNS開発の経緯 パートナーシップ理論		
実技演習(手技確認) 5/20:23名	5月	5/1事前課題提出期限 5/9:23:51名 1回目研修 (土曜9~12時)		部署訪問	学研:クレーム対応 5/27:16名	PNS運用 PNS 障害・混乱の対応・対策		
看護理論 6/22:21名 ケースの取り組み目的、 研修講義実施	6月	6/15事後課題提出期限 6月中 ラダー担当者 病棟ラウンド*	学研:中堅看護師の力で病棟は変わる 7/30 木		他部署留学	PNS メンバーの役割・ 活動のポイント	退院支援 講師はH26在宅支援 受講修了者 6/29・30・7/3:253名	
	7月		プレゼンテーション2回 7/6-7/13:42名	7/15:38名 研修:ステップ表の作成	他部署留学2か月 主任18名 2日間/1人	フィッシュ 7/27:10名		
学研ナーシング:急変対応 8/12:16名	8月	8月中 事後課題中間評価	学研ナーシング: 人工呼吸器管理 8/12:16名		課題と行動計画を発表 8/10:27名	PNS 業務体制の整備と 勤務割り		
1週目:USB配布 3週目:原稿提出	9月	9/14:28:56名 2回目研修 (17:45~19:00)	9月下旬原稿提出	(実践)			ナラティブ 9/16:79名	研修 統計予定
1週目:原稿最終提出 3週目:スライド提出 4週目:スライド最終提出	10月		10/29:76名 ケーススタディー発表	研修:中間評価 10/13:37名 進捗状況の確認	*学研:メンタルヘルスの保持増進 10/5			
11/2・9:116名 ケーススタディー発表	11月	11/12:25:81名 3回目研修			成果報告 11/24:32名			
	12月		12/7 活き活き職場を作ろう				法人内認定看護師 活動報告12/2	
	1月			ステップ表の提出			1/15:139名 PNSキックオフ	
	2月	学研:看護に役立つ 胸部画像のみかた 2/29:17名	ヨガでリフレッシュしよう 2/17:16名	2月下旬:成果発表 2/17:49名				
学研:看護の心とわざ 3/16	3月				学研:リフレクションにおけるフィードバックの方法と その技術 3/28:14名	新人看護師迎える準備 実地指導者・教育担当者の 役割 3/7:36名 講師:教育担当者	研究発表 3/26	



## 学会・研修会への参加実績

研究に関しては、定期的に外部講師からの指導を受けており、日本看護学会の各領域の学会を中心に、次頁に示す通り各部署より発表しています。また、専門学会にも16演題発表しておりますので、183ページを参照してください。

法人全体の看護部で行われる「法人内看護Institute」では、「認知症患者の尊厳を考える～それぞれの看護の立場より～」のテーマで医療法人成蹊会佐世保北病院病院長の有吉中先生を講師として招き、特別講演をしていただき、第二部として「法人内における施設間の認知症患者対応の活動報告・意見交換」を行いました。急性期から在宅の4施設より取り組みを発表し、意見交換を行いました。

院内の看護研究学会では、特別講師の石垣恭子教授による「検定に結び付けるアンケート」の教育講演、院内より10題の発表がありました。



2015年度日本看護学会出席状況

部 署	学 会 名	月 日
ICU/透析室	日本看護協会 急性期看護	9月29日・9月30日
5階西消化器内視鏡センター	日本看護協会 急性期看護	9月29日・9月30日
手術室・中材	日本看護協会 急性期看護	9月29日・9月30日
4階南病棟	日本看護協会 急性期看護	9月29日・9月30日

## 重点目標・評価と来年度への展開

### 1) 「退院支援スタッフの育成」と「退院支援カンファレンスの充実」

2015年度は、退院支援についての学習として、「在宅支援スタッフの育成」プログラムを1年かけて学習し修了試験も合格した看護師が11名(計50名)誕生しました。訪問看護・ケアプランセンターの実習を経て、在宅の現状も把握した看護師です。

退院支援チームの主任と他部門・多施設の職員が参加する「拡大カンファレンス」を継続し、患者や家族にとって「幸せな退院」になるような活動を積極的に行いました。入院時より、担当看護師とMSWによるスクリーニングを実施し、入院3日以内の退院カンファレンスの開催を行い、早期の介入を行っています。その後は、定期的に退院カンファレンスを行っています。退院前には、「かかりつけ医」「在診医」「ケアマネジャ」の協力のもと、多職種との退院前カンファレンスを実施し、在宅希望の患者・家族の意向に沿えるような最善の在宅支援を検討しています。必要時は、試験外出・外泊時を勧めて、在宅に必要な物が揃っているかの確認を行うなど、看護師、MSW、ME、リハビリスタッフ、訪問看護師と共に退院前訪問を行いました。

5月には、「在診医」の先生方に来ていただき、全職種対象の「各病棟より成功体験・失敗体験も入れて、「退院支援の症例報告会」を行い、自部署に置き換えたときに、どのように退院支援を進めるかなどを学びました。また、8月には「在宅医療支援診療所の現状と今後の展望～在宅医療の実際を現場に携わる先生方から皆で学ぼう～」をテーマとして、「在診医」の先生方に来ていただき、在宅での診療や急性期病院に求めることなどを話して頂き、退院支援について一層学びが深まりました。退院後も転院先や訪問看護師と連携を取り、十分な連携・サービスが整っていたかの評価を始めています。

### 2) 「食べられる口」をつくるための「口腔ケアの充実」

「口腔ケア回診」も3年目を迎え、歯科衛生士2名と、法人内認定NSTナースは、各病棟にて口腔ケアの指導や、口腔内点検(歯周病や義歯の咬合)を行っています。周術期の歯科受診、栄養管理を始め早期の経口摂取と術後感染防止を目指しています。

## 3) 「認知症専門ナースの育成」と「ユマニチュードの考え」、「院内デイ」

急性期病院でも認知症や術後せん妄の対応に苦慮しています。2014年度より認知症センターの専門医師およびスタッフが講師となり、1年計画で「認知症専門ナース」の育成を行い、4名が修了(計12名)しました。現在は、各部署にて「認知症看護」のモデルナースとなり活動しています。さらに、認知症センターと協働し、「認知症患者のコンサルテーションフロー」を作成し、各部署での認知症対応困難事例は、コンサルテーションを受け、早期対応を行いました。

11月に「ユマニチュード入門コース」を3名が受講し、認知症患者への対応を理解・実践できるように全職員対象の研修会を6回行いました。2016年度に向け全職員で学習を進めています。

また、「1.入院患者の離床促進、2.離床促進により、早期離床およびADLの拡大および早期退院の実現、3.入院患者の生活リズムの獲得」を期待効果として10月より第一弾として、3階東病棟の院内デイルーム「なごみ」において、平日の10:00~13:00の「院内デイ」を開始し、リハビリテーション部との協働でレクレーションなども行っています。デイ利用者の表情は穏やかで、家族からも「とてもいきいきとしている」などの言葉をいただいています。3フロアにデイルームを改築しているため、今後の運用は検討していく予定です。

## 4) 「急性期看護の充実」

2015年度はBLSプロバイダー・ACLSプロバイダー研修などを院内で行い、地域の医療機関に務める医療職の方の資格取得を支援しました。同時に、質を標準化し高める為に、救急外来受診時のJTASを用いたトリアージを開始しました。さらに、救急症例検討会では救急隊とのデスクッションで、前向きな意見交換を行い、各々のすべきことを検討しています。7月に「シミュレーター室」を開設し、シミュレーション機器などを整えています。現在は「高機能シミュレーター」を用いて、救急看護認定看護師と集中ケア認定看護師が各部署対象で状況設定を行いながら分散教育を行っています。

## 救急症例検討会

開催日時	タイトル	担当者	院内	院外	合計
2015年4月13日	脳卒中初期対応について 病院選定と情報共有の重要性	脳神経外科医長 竹本光一郎 外来/救急外来看護課救急看護認定看護師 谷口拓司	40	26	66
2015年5月21日	頭蓋内圧亢進症例について	脳神経外科医長 竹本光一郎 外来/救急外来看護課救急看護認定看護師 谷口拓司	25	19	44
2015年6月19日	脳卒中?低血糖症例	脳神経外科医長 竹本光一郎 外来/救急外来看護課救急看護認定看護師 谷口拓司	20	18	38
2015年8月18日	脳卒中?高齢者てんかん症例	脳神経外科医長 竹本光一郎 外来/救急外来看護課救急看護認定看護師 谷口拓司	20	15	35
2015年8月28日	災害机上シミュレーション	<院外講師> 独立行政法人国立病院機構長崎医療センター救命救急センター長 高山隼人先生 他県内の救急隊 副院長兼救急部長 柴田隆一郎	79	30	109
2015年11月2日	急性心筋梗塞	循環器内科 本田智大	20	17	37
2015年12月21日	見逃しやすい脳虚血症例	脳神経外科医長 竹本光一郎 外来/救急外来看護課救急看護認定看護師 谷口拓司	17	14	31

# 【薬剤部】

薬剤部は調剤室、注射室、製剤室、医薬品情報室、医薬品倉庫で構成され、救急および急性期の医療に24時間対応し、医薬品の適正使用ならびに適正管理に努めています。患者さんにとって最適な薬物療法が実施されるよう薬剤管理指導業務、調剤業務等を通して、チーム医療の一員として業務に取り組んでいます。

## 主な施設基準

- 薬剤管理指導料
- 外来化学療法加算1
- 無菌製剤処理料1

## 職員配置

	常勤数	非常勤数
総数	12人	3人
薬剤師	12人	0人
薬剤助手	—	3人

## 取得認定資格

- 日本医療薬学会指導薬剤師 …………… 1名
- 日本医療薬学会認定薬剤師 …………… 2名
- 日本糖尿病療養指導士(CDE) …………… 2名
- 日本リウマチ財団リウマチ登録薬剤師 …………… 2名
- 日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師 …… 3名
- 日本薬剤師研修センター認定実務実習指導薬剤師 …………… 1名
- 日本病院薬剤師会認定指導薬剤師 …………… 1名
- NST専門療法士 …………… 1名

## 活動状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
薬剤管理指導	実施人数	159	164	192	192	187	201	250	201	220	216	194	223	200
	実施件数	227	236	288	278	270	293	351	313	282	300	302	310	288
入院時持参薬	鑑別件数	400	396	414	433	404	401	418	427	364	429	431	438	413
抗癌剤無菌調整算定件数	外来(件)	64	63	58	71	66	78	95	82	97	91	94	112	81
	入院(件)	26	22	26	29	37	17	23	29	33	40	48	27	30
外来(院外)処方枚数		5,877	5,444	5,757	6,013	5,607	5,916	6,096	5,599	5,981	5,535	5,745	6,161	5,811
外来(院内)処方枚数		243	262	264	277	303	265	290	259	282	331	478	365	302
入院処方枚数		3,971	4,160	4,583	4,608	4,147	4,218	4,201	4,540	4,653	4,679	4,642	4,820	4,435



## 学会・研修会等発表実績

### ■ 研究会、講演会発表

学 会 名	演 題	発 表 者
長崎県病院薬剤師会感染制御研修会	MRSA肺炎患者へのVCM初期投与設計の有用性	岩 村 直 矢
大牟田リウマチを考える会	関節リウマチ治療における薬剤師のかかわり	曾 根 本 恵 美
ブリストルマイヤーズ主催セミナー	関節リウマチ治療のチーム医療における薬剤師の役割	曾 根 本 恵 美
リウマチ市民公開講座	抗リウマチ薬を使うときの注意点	曾 根 本 恵 美

## 重点目標・評価と来年度への展開

2015年度には2名の薬剤師が入職しました。若い薬剤師が増えているため、薬剤部全員で幅広い知識の習得に力を入れており、その結果、薬剤管理指導、退院時服薬指導の実績の増加に繋がっています。2016年度には、さらにより多くの入院患者さんの薬物療法に積極的に介入し、チーム医療の一員として適切な薬物療法に貢献できるよう努めます。また、専門分野にもより深く追究し、専門・認定資格取得を目指します。

# 【放射線技術部】

放射線技術部は、放射線関連検査および治療に携わっている診療放射線技師を中心とした部門です。診断価値の高い画像情報を提供できるよう、各種専門・認定資格を有する診療放射線技師が多数在籍しており、また、患者さんが安心して検査や治療を受けることができるように医療被ばくの低減にも努めています。

## 主な施設基準

CT撮影及びMRI撮影  
冠動脈CT撮影加算  
心臓MRI撮影加算  
高エネルギー放射線治療

## 施設認定

マンモグラフィ検診施設画像認定  
医療被ばく低減施設認定

## 職員配置

	常勤専従	常勤専任・兼任		非常勤数
		人数	常勤換算	
総 数	16人	1人	0.5人	—
診療放射線技師	15人	1人	0.5人	—
事 務（受付）	1人	—	—	—

## 取得認定資格

放射線取扱主任1種……………2名  
放射線管理士……………3名  
放射線機器管理士……………4名  
医用画像情報精度管理士……………2名  
検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師……………1名  
MR専門技術者……………1名  
胃がん検診専門技師……………3名  
救急撮影認定技師……………1名

## 活動状況

	2011年度件数	2012年度件数	2013年度件数	2014年度件数	2015年度件数
一 般 診 療	48,264	48,202	51,547	58,753	60,845
検 診	10,676	12,798	12,649	12,892	13,306
総 計	58,940	61,000	64,196	71,645	74,151

## 重点目標・評価と来年度への展開

スタッフの退職により、限られた人員での活動になり、重点目標16項目中4項目が未達成という残念な結果になりました。有給消化率・広報紙発行回数・エキスパート認定者数については、人員不足や担当者変更の影響を直接受けました。MRI待ち日数短縮については、MRI件数の増加によりわずか0.11日及びませんでした。

目標達成できた代表的なものを区分毎に上げますと、「顧客満足の視点」において、患者満足度評価の結果9.5点以上・職員間満足度評価の結果7.5点以上がどちらも10項目と、目標値を大きく上回りました。今後も、これまで同様質の高い接遇を目指し、気を緩めることなく改善活動を続けていきます。「財務の視点」においては、当初は達成が難しいと案じていた放射線治療新規計画数ですが、当部スタッフはもちろん、関連する医師や連携施設の協力のおかげで、159件と目標達成できました。「病院機能の視点」では、医療装置の定期点検を2回行いました。メーカーにしかできない点検もあるのですが、自分達でできる場所をきちんと行うことが、装置の安全性はもとよりスタッフの意識も高まり、より安全安心な医療を提供することができます。「学習と

成長の視点」では、教育システムの強化として、教育プログラムを2検査分作成しました。また、新人教育プログラムも別途作成し、2016年度よりさっそく利用しています。今後も、より高い知識・技術を提供できるよう、確かな教育システム作りに取り組んでいきます。

## 学会発表実績

日付	学会名	演題	発表者
2015年8月	CTMR研究会	CTCの診断における役割	中恵 龍一
2015年8月	九州IVR研究会	PHILIPS ALLURA Clarity FD20/20 の使用経験	伊藤 淳一
2015年11月	九州放射線医療技術学術大会	撮影時平均心拍数と冠動脈描出能の関係	森 健大
2015年11月	日本診療放射線技師全国大会	VISTAでの頸動脈プラークの評価	馬場 隆治
2016年1月	Medtronicペースメーカー勉強会	MRI対応ペースメーカーの現状と課題	馬場 隆治

# 【臨床検査技術部】

「中央分析室」「病理細胞診室」「微生物室」「生理超音波室」の4部署から構成されており、一日も早い患者さんの社会復帰を実現するために、職員一丸となって最新の検査技術・知識を駆使し業務に当たっています。当部門は臨床検査の国際規格であるISO 15189「臨床検査室一品質と能力に関する要求事項」を、長崎県で第1番目(全国65番目)に取得した認定検査室です。当院、臨床検査技術部で測定・報告された検査データは、国際的にも通用するものです。



ISO 15189認定シンボル

## 主な施設基準

ISO 15189認定施設  
 精度保証施設認証 取得施設(JCCLS、日臨技)  
 長臨技データ標準化委員会基幹病院

## 職員配置

	常勤	非常勤(常勤換算)	合計(常勤換算)
医師	1人	—	1人
臨床検査技師	23人	5人(4人)	28人(27人)
助手	—	2人(1.5人)	2人(1.5人)

## 取得認定資格

細胞検査士……………5名  
 超音波検査士……………4名(実人数)  
 (消化器4名、循環器2名、体表臓器1名、健診1名)  
 認定輸血検査技士……………2名  
 糖尿病療養指導士……………2名  
 血管診療技師……………1名  
 認定心電検査技師……………1名  
 認定病理検査技師……………1名  
 救急検査認定技師……………3名  
 二級臨床検査士……………2名  
 (病理学1名、微生物学1名)

## 活動状況

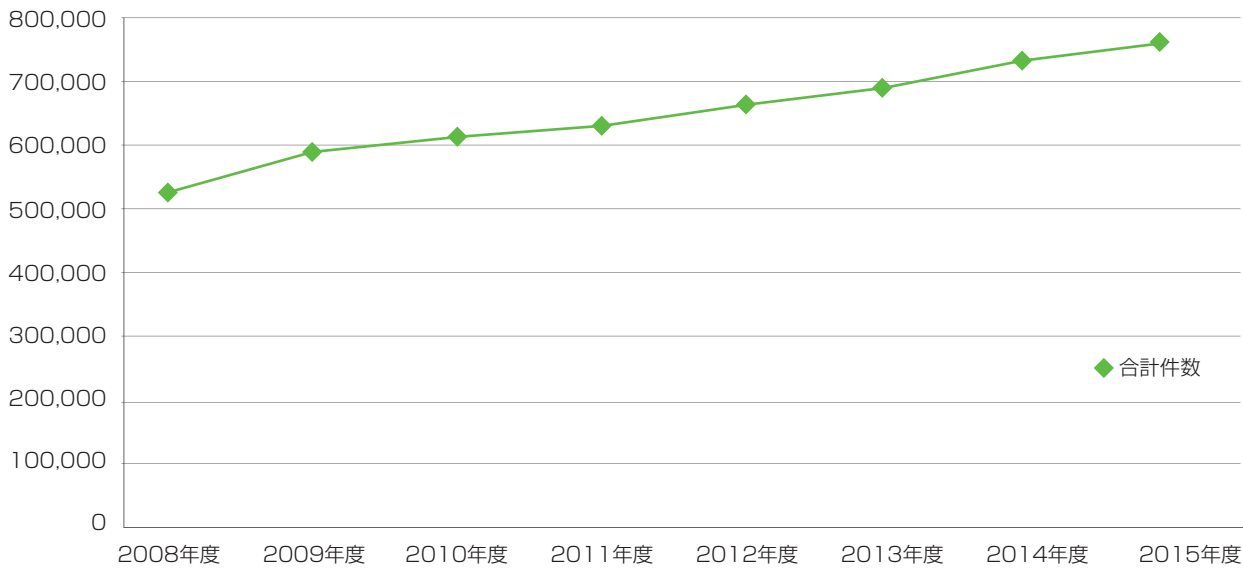
	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
生化学・免疫	207,264	246,041	256,658	264,069	279,393	297,765	305,429	315,310
血液・一般・輸血	213,214	236,888	242,807	247,954	259,684	277,257	294,071	300,869
生理・超音波	34,056	36,953	34,911	33,639	35,901	37,618	40,815	41,965
微生物	9,647	10,652	11,603	12,259	11,988	13,994	14,626	13,399
病理・細胞診	6,615	7,128	6,886	6,534	6,871	6,662	7,025	7,614
外来採血	35,291	39,358	41,610	43,671	44,923	45,642	45,461	45,670
外注	15,226	14,376	16,220	15,050	15,337	16,835	16,477	17,454
合計件数	521,313	591,396	610,695	623,176	654,097	695,773	723,904	742,281

病理解剖	18	14	10	10	21	10	14	12
------	----	----	----	----	----	----	----	----



## ◆合計件数



## 重点目標・評価と来年度への展開

2015年度はISO 15189の2012版への移行・生理学的検査の認定追加・初回更新についての審査を受審し無事、移行・拡大・更新が認められました。引き続きISO 15189の要求事項に適合した組織運営を進めていきます。また、2015年4月より新たに臨床検査技師の業務となった一部の検査採取について臨床現場で実践し、チーム医療への参画を進めていきます。

## 学会発表実績

学 会 名	演 題	
ロシュダイアグノスティクス株式会社 社内勉強会	病理検査における品質管理(ISO15189)について	片 渕 直
第64回日本医学検査学会	ISO15189認定取得による効果	安 東 摩 利 子
第64回日本医学検査学会	ISO15189取得後の運用について	片 渕 直
第56回日本臨床細胞学会総会 春季大会	当院における胃癌術中腹水・腹腔内洗浄細胞診成績と予後との関連	片 渕 直
平成27年度長崎県南地区臨床検査研究会総会	当院における検体採取の現状について	坂 口 麻 亜 子
第69回国立病院総合医学会	在宅医療における臨床検査の関わり	丸 田 秀 夫
ロシュダイアグノスティクス株式会社 社内勉強会	病理検査における品質管理(ISO15189)について	片 渕 直
日臨技九州医学検査学会	エリアSmDpの基礎的検討	鈴 木 涼
日臨技九州医学検査学会	当院臨床検査技術部における医療安全推進への取り組み	丸 田 千 春
日臨技九州医学検査学会	文書管理委員会の取り組み	廣 川 博 子
第54回日本臨床細胞学会秋季大会	非典型的な細胞像を示した膠芽腫の一例	本 山 高 啓
第53回日本糖尿病学会九州地方会	抗GAD抗体陽性患者の検討	安 東 摩 利 子
日本医療マネジメント学会 第16回長崎支部学術集会	感染防止対策加算1施設による相互評価の効果	坂 口 麻 亜 子
長崎県臨床検査技師会学会	採血コーナーにおける患者アンケート調査について	濱 晶 乃
長崎県臨床検査技師会学会	検体採取への取り組み	清 水 菜 央
長崎県臨床検査技師会学会	当院におけるトレッドミルを用いた負荷ABI検査について	三 根 明 日 香
第21回つくば臨床検査フォーラム	病棟・外来で求められる臨床検査技師の役割	丸 田 秀 夫
第1回日本臨床検査医学会九州地方会	当院における検査前手順の改善について	安 東 摩 利 子
第1回日本臨床検査医学会九州地方会	生理学的検査におけるISO15189認定取得までの経過および効果	丸 田 千 春

# 【臨床工学部】

臨床工学技士は医師の指示のもと、循環・呼吸・代謝機能を代替、補助する生命維持管理装置の操作、保守点検を担当する技術者のことで、ME(Medical Engineer)や、CE(Clinical Engineer)と呼称されています。

近年の高度先進医療の目覚ましい発展と共に医療機器も複雑化、多様化しており、我々、臨床工学技士が医療機器の購入から運用、廃棄まで一貫して管理を行い、患者さんはもちろん、現場スタッフにも安心して使用して頂ける医療機器の提供と共に臨床技術の提供、現場スタッフへの教育などを行っています。

現在男性6名、女性4名の計10名の臨床工学技士が在籍しており、血液浄化業務、手術室業務、医療機器管理業務、不整脈治療業務、温熱療法業務、睡眠時無呼吸外来業務、待機、当直業務、医療ガス設備管理業務などを365日24時間体制で行っています。

## 主な施設基準

医療機器安全管理料1  
 透析液水質確保加算2  
 MRI対応植込み型デバイス装着患者のMRI検査  
 冠動脈、大動脈バイパス移植術及び体外循環を要する手術  
 経皮的冠動脈形成術、経皮的冠動脈血栓切除術及び経皮的冠動脈ステント留置術  
 下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法

## 職員配置

認定資格	透析技術認定士	1名
	体外循環技術認定士	1名
	呼吸療法認定士	1名
	特定化学物質等作業主任	2名
	第一種消化器内視鏡技師	1名

メンテナンス認定	人工呼吸器 Servo i / S プリベンティブメンテナンス講習会	5名
	人工呼吸器ピューリタンベネット 700シリーズミドルコース	3名
	人工呼吸器ピューリタンベネット 700シリーズアドバンスコース	5名
	低圧持続吸引器MS-008 メンテナンス講習会	2名
	輸液ポンプTE-131 メンテナンス講習会	5名
	輸液ポンプTE-161S メンテナンス講習会	5名
	シリンジポンプTE-331S/322S メンテナンス講習会	5名
	シリンジポンプSP-115 メンテナンス講習会	1名
	日機装透析液供給装置 メンテナンス講習会	8名
	日機装患者監視装置 メンテナンス講習会	8名

スタッフ構成	臨床工学技士	10名
--------	--------	-----

## 活動状況

M	E	機	器	使用件数				
シ	リ	ン	ジ	ポン	プ	5,169		
輸	液	ポ	ン	プ	4,378			
医薬品注入コントローラ(ドリップアイ)					275			
経腸栄養剤投与輸液ポンプ(アブリックススマート)					11			
携帯型輸液ポンプ(PCAポンプ)					3			
S	P	O	2	モ	ニ	タ	ー	105
モニター					13			
人工呼吸器					139			
非侵襲型呼吸器					170			
二相式気陽圧ユニット(オートセットCS)					6			
エアロネブ					31			
低圧持続吸引機(メラサキューム)					230			
超音波装置					361			
<b>合計</b>					<b>10,891</b>			

M	E	機	器	修	理	件	数	
自				部		署		625
業				者		161		
<b>合計</b>					<b>786</b>			

透	析	機	器	使用件数	
透析供給装置				314	
A剤自動溶解装置				314	
B剤自動溶解装置				314	
RO装置				314	
患者監視装置				13,096	
<b>合計</b>					<b>14,352</b>

ア フ ェ レ ー シ ス 関 連			
C H D F	症例数	16	
	治療件数	92	
エンドトキシン吸着療法	症例数	9	
	治療件数	15	
単 純 血 漿 交 換	症例数	5	
	治療件数	23	
L D L 吸 着 療 法	症例数	2	
	治療件数	19	
L - C A P	症例数	10	
	治療件数	57	
G - C A P	症例数	1	
	治療件数	10	
腹 水 濃 縮	症例数	4	
	治療件数	4	
合 計	症例数	47	
	治療件数	220	

温 熱 治 療	合 計
導 入 数	26
治 療 件 数	276

補 助 循 環 装 置	使用件数
P C P S	8
I A B P	22
合 計	30

自 己 血 回 収 装 置	使用件数
	48

レ ー ザ ー 焼 灼 術	使用件数
	141

E C C	合 計
C A B G	8
A V R	1
M P	1
C A B G + A V R	1
心 臓 腫 瘍	1
V S P	2
大 血 管	5
M I C S + M P	7
C A B G + M P	1
M P + T A P	2
オ ー プ ン ス テ ン ト グ ラ フ ト	1
合 計	30

O P C A B	合 計
	7

神 経 刺 激 装 置			
S	E	P	3
M	E	P	6
合 計			9

カ テ ー テ ル ア プ レ ー シ ョ ン	合 計
	9

## 重点目標・評価と来年度への展開

### ■当直業務における均一した業務提供

2013年9月より当直業務を開始しましたが、業務によって技術の斑が無いよう、ステップ表に基づいて、一定のスキルまでスタッフ教育を行います。

### ■在宅・緩和医療への参入

今後、在宅で医療機器は頻繁に使用されることが予測されます。院内使用から在宅使用へスムーズな移行が出来るよう、訪問看護ステーション、緩和医療地域連携医とのチーム医療へ参入していかなければならないと考え、在宅支援ST育成を推進します。

## 学会への参加

学 会 名	演 題
第10回九州臨床工学技士会	在宅連携推進に関する臨床工学技士の関わり
第8回長崎臨床工学技士会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●当院における医療機器安全管理</li> <li>●当直業務開始による問題点と今後の展望</li> <li>●当院におけるタブレット端末導入について</li> </ul>
第43回長崎人工透析研究会	現場の困りごとをかたちへ

# 【リハビリテーション部】

長崎県下の急性期病院の中でも最多のスタッフ数を誇り、安全で効果的なリハビリテーションを365日体制で提供しています。

対象患者も術後早期から緩和医療の患者まで幅広く、「いつでも、どこでも、誰にでも」をモットーに必要なのある患者に十分な量のリハビリテーションを実施しています。

## 主な施設基準

- 脳血管疾患等リハビリテーション料I
- 運動器リハビリテーション料I
- 呼吸器リハビリテーション料 I
- 心大血管疾患リハビリテーション料 I
- がん患者リハビリテーション料

## 職員配置

	常勤
理学療法士 (PT)	25人
作業療法士 (OT)	17.85人
言語聴覚士 (ST)	8.8人

## 取得認定資格

- 認定理学療法士(循環).....1名
- 認定理学療法士(呼吸).....2名
- 認定理学療法士(脳卒中).....2名
- 認定理学療法士(運動器).....2名
- 認定理学療法士(代謝).....1名
- 認定言語聴覚士(摂食嚥下).....1名
- AKA博田法 認定指導助手.....1名
- 心臓リハビリテーション指導士.....2名
- 3学会合同呼吸療法認定士.....7名
- 日本糖尿病療養指導士.....1名
- 介護支援専門員.....5名
- 福祉住環境コーディネーター2級.....19名
- 福祉用具プランナー.....9名
- 福祉用具専門相談員.....1名
- 認知運動療法 ベーシックコース修了.....6名
- 認知運動療法 アドバンスコース修了.....1名
- ボバース イントロダクトリーモジュール.....3名
- ボバース ヒューマンムーブメント.....3名
- ボバース 3週間基礎講習.....2名
- ボバース 上級講習.....1名
- キネシオテピングKTAM.....4名

- 地域リハビリテーションコーディネーター.....1名
- 摂食嚥下コーディネーター.....5名
- リンパ浮腫セラピスト.....1名
- メンタルヘルスマネジメントⅡ種.....6名
- メンタルヘルスマネジメントⅢ種.....2名
- コアコンディショニングBASICインストラクター.....4名
- コアコンディショニングADVANCEインストラクター.....2名
- パワーリハビリテーション上級指導員.....1名

## 活動状況

### 部門別実施件数

単位：件

		2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
入 院	P T	31,149	30,556	32,749	35,770	40,399
	O T	24,470	25,281	24,792	28,886	30,642
	S T	9,844	8,484	10,696	12,222	13,842
	合計	65,463	64,321	68,237	76,878	84,883
外 来	P T	1,323	1,077	950	1,587	2,658
	O T	259	533	352	568	806
	S T	136	328	222	220	258
	合計	1,718	1,938	1,524	2,375	3,722

### 疾患別内訳 FIMによる効果判定

単位：件

	件数	全 体		
		Gain	Efficiency	
全 体	2,629	23.03	1.19	
外 科	317	37.13	2.05	
脳 神 経 外 科	428	20.28	1.31	
整 形 外 科	368	23.38	1.12	
心 臓 血 管 外 科	113	37.28	1.60	
循 環 器 内 科	370	23.38	1.45	
消 化 器 内 視 鏡 科	273	14.02	1.03	
内 科	リ ウ マ チ	297	14.32	0.73
	糖 尿 病	114	14.93	0.86
	呼 吸 器	180	13.79	0.65
	そ の 他 内 科	125	12.62	0.56
そ の 他	44	11.36	0.56	

FIM(機能自立度評価表)とはADLを評価する評価法のひとつです。FIMは、運動13項目と認知5項目の計18項目で評価します。採点基準は、介護量を7点から1点で評価します。(7点完全自立、6点修正自立、5点監視準備、4点最少介助、2点最大介助、1点全介助)

## 重点目標・評価と来年度への展開

2015年度は病棟窓口制を導入することで病院内の連携を強化するとともに、退院前後の自宅訪問指導を積極的に実施することで、スタッフの教育や業務改善を図りこれまで以上に質の高いリハビリテーションを提供し病院経営にも貢献できたと考えます。2016年度以降も継続して取り組んでいきたいと思ひます。



## 学会発表実績

### 【全国】

学 会 名	演 題	発 表 者
第24回 整形外科リハビリテーション学会学術集会	「肩腱板再断裂に対する上方関節包再建術の一例」	岡 亮平
第21回 日本心臓リハビリテーション学会学術集会	「慢性心不全患者の心臓リハビリテーション開始時期におけるリハビリテーション進行と退院時歩行能力について」	川上 章子
第53回 日本癌治療学会学術集会	「がん周術期後期高齢者がリハビリテーション継続目的で転院・転所となった因子の検討」	木村沙那恵
第20回 日本緩和医療学会学術大会	「1週間の短期退院により最後の正月を自宅で迎えられた肺癌末期患者の事例」	木村沙那恵
第12回 日本神経理学療法学術大会	「神経伝導検査を用いた対麻痺の原因把握が適切な運動療法と装具療法の導入に結びついた一症例」	下川 善行
第21回 日本心臓リハビリテーション学会学術集会	「肺高血圧を有する高齢心不全患者への日常生活指導」	田中 恒勢
	「たこつぼ型心筋症に合併した心室中隔孔により、パッチ術施行した患者に対しての、離床に向けての取り組み」	田中 亮輔
第5回 日本ロボットリハビリテーションケア大会	「脳梗塞の症例に対してHAL訓練を行なった経験-2カ月間の歩行の効果-」	松原 賢
第20回 日本緩和医療学会学術大会	「週末期がん患者の生きる希望と残される家族を支えたリハビリテーション」	吉田真奈美

### 【九州】

学 会 名	演 題	発 表 者
第51回 九州リウマチ学会	「当院におけるリウマチ教育入院患者に対するアンケート」	大平 康智
九州理学療法士・作業療法士合同学会 In大分	「急性期脳卒中患者へのロボットスーツHALの即時効果」	川上 章子
	「2型糖尿病患者における2ステップテストとtime up and go test及び握力との関連につて」	川上 章子
	「2型糖尿病に対する運動療法実施前後でのGait Efficacy Scale(GES)の変化」	廣田 奈央
第53回 日本糖尿病学会 九州地方会(福岡)	「当院2型糖尿病患者の教育入院前後での運動療法に対する効果判定」	室島 央典

## 講演・学術活動

学 会 名	演 題	講 師
SRST講習会	「呼吸介助・排痰法につて」	浦田美智子
在宅支援スタッフ育成プログラム研修	「介護予防について」	兼石 匠
長崎県教職員互助会	「介護相談」	北村 雅志
北大和町サロン	「介護予防 リーダー養成説明会」	北村 雅志
長崎県理学療法士協会 新人教育研修会	「内部障害の理学療法」	田代 伸吾
認定看護師向け勉強会	「高次脳機能障害について」	野田 舞
白十字病院看護部 現任教育委員会疾患別研修	「認知症について」 「認知症について ～病気の理解と対応方法～」	嶋田 史子
認知症予防研究会	「認知症について」	橋口 留美
ヘルパー向け講習会	「認知症ケアについて」	橋口 留美
一般型ドリームケア定期的勉強会	「認知症について」	橋口 留美
佐世保市介護支援専門員連絡協議会より依頼		橋口 留美
白十字病院看護部 現任教育委員会疾患別研修	「認知症について」 「認知症について ～病気の理解と対応方法～」	橋口 留美
認知症専門Ns育成プログラム(在宅連携推進室窓口)	「認知症の人への接し方について」「事例検討会」	橋口 留美
在宅支援スタッフ育成プログラム	「認知症の理解 ～効果的な対応方法とレクリエーションについて～」	橋口 留美
在宅支援スタッフ育成研修会	「認知症について」	橋口 留美
事業所学習会	「認知症ケアについて」	橋口 留美
第1回 日本糖尿病療養指導士主催 法人内研修	「糖尿病警察について」	室島 央典
日本糖尿病療養指導士主催	「看護・介護向け糖尿病研修」	室島 央典
白十字在宅療養サポートセンター主催 地域派遣講師	「健康体操について」	室島 央典
在宅療養サポートセンター主催 地域向け勉強会	「自宅で出来る転倒予防」	室島 央典
県北NST研究会 座長		山口めぐみ
長崎県言語聴覚士会学術講演会 座長		山口めぐみ
中央病院ICUナース向け	「摂食・嚥下障害とリハビリテーション」	山口めぐみ
在宅療養サポートセンター主催松原地区住民向けセミナー	「お口の健康と誤嚥性肺炎」	山口めぐみ
法人内脳卒中認定看護師研修会	「摂食・嚥下障害について」	山口めぐみ
長崎県言語聴覚士会基礎講座	「研修法序論」	山口めぐみ
長崎県理学療法士協会 新人教育研修会	「神経系疾患の理学療法」	山口めぐみ
法人内脳卒中認定看護師勉強会	「これだけは知っておきたいリハビリテーション看護について」	吉田 裕志

# 【栄養管理部】

栄養管理部の業務は主に「栄養指導」「栄養管理」「給食管理」です。

栄養指導では糖尿病センターでの継続した栄養看護外来を中心に、外来、入院患者さんに対して病態別に栄養指導を行っています。集団栄養指導として糖尿病教室を毎週月～金に開催しています。

栄養管理の充実をはかるため、2015年度から管理栄養士を病棟担当制にしました。病棟での栄養管理は入院時の栄養スクリーニングから始まり、定期的なアセスメント、多職種と協働した食形態の適正化、病態を考えた栄養量の確認、食事内容や経腸栄養剤の検討、食事個別化への工夫などです。また毎週金曜日には多職種による栄養カンファランス、回診を行っています。

給食管理については給食委託会社と協力し、イベント食としてコース料理(和・洋・中)の提供を行っています。

## 主な施設基準

食事療養I  
 栄養サポートチーム加算

## 職員配置

	常勤
管理栄養士(常勤)	10人

## 取得認定資格

管理栄養士……………10名  
 NST専門療法士……………1名  
 病態栄養認定管理栄養士……………1名  
 日本糖尿病療養指導士(CDE)……………4名  
 NST専任・専従資格者……………5名  
 摂食・嚥下コーディネーター……………4名  
 食生活アドバイザー……………1名  
 調理師……………1名

## 活動状況

### ■ 栄養指導、療養支援・相談、栄養介入件数

栄養看護外来 (療養支援・相談)	3,795件	
入院個別栄養指導	840件	
外来個別栄養指導	499件	
透析糖尿病予防指導	20件	
集団指導(糖尿病教室)	加算件数	147件
	参加延数	1,280人
栄養介入件数	565件	

### ■ イベント食開催および参加患者数

開催数：7回  
 (5月、7月、8月、9月、10月、11月、3月)  
 参加延数：184名

### ■ 給食内訳

一般食	118,494食
特別食	114,852食

## 重点目標・評価と来年度への展開

栄養管理の充実を図るため各病棟に管理栄養士を配置して2年目になり、必要な方に早期から栄養介入ができるよう取り組んでいます。入院時の栄養スクリーニング(MNA)では、約1割が入院時に「低栄養」、約4割が「低栄養の疑いがある」という結果でした。また2015年度からNST加算を算定できる体制が整いました。さらに2016年度からは個別栄養指導の対象が低栄養、嚥下機能低下、がん患者まで広がります。栄養介入から個別栄養指導、また退院後の栄養・生活支援までの流れを構築し、在宅復帰を栄養の面から支援していきたいと考えています。

## 学会・研修会への参加実績

学会/セミナー	演 題 名	演 者
日本糖尿病学会 年次学術集会	SMBG-2Daysに食事写真を併用した栄養指導の検証	貴島左知子
日本糖尿病学会 九州地方会	写真に夜食事記録と血糖記録の有用性を検証	貴島左知子
	1型糖尿病患者の食事療法の意識調査と栄養表示の関係性	八木 計佑
	HbA1c7.0%未満患者の行動パターンの傾向	松永 大輝
大村地域連携研修会	SMBG-2Daysに食事写真を併用した栄養指導	貴島左知子
県北臨床循環器懇話会	循環器連携パス患者への栄養指導～現在の取り組み～	山田 陽子

# 【感染制御部】

病院は「病原菌を持った人」と「病気になって免疫が落ちている人」が集中する特殊な環境のため、何も対策がとられなければ感染は起こって当然という環境にあります。感染制御部はこうした危険性を予測し、「病院に関わるすべての人を医療関連感染から守る」ことをモットーに、調査監視を行い、最新の感染防止技術の導入と徹底、感染防止教育などを行っています。

2007年6月1日に感染制御部が新たな部門として設立されました。2011年11月に室長が退職され、CNIC(Certified Nurse Infection Control:感染管理認定看護師)の専従の一人体制でしたが2012年9月より事務員が兼任で配置されるようになりました。多数のICD(Infection Control Doctor:感染制御医)や薬剤師、臨床検査技師、法人内認定感染管理ナース、感染対策委員会メンバーと連携をとって、感染対策を推進しています。

## 主な施設基準

感染管理加算1  
地域連携加算

## 取得認定資格

- ・感染管理認定看護師
- ・第二種滅菌技師
- ・口腔ケア認定4級
- ・整理収納アドバイザー2級

## 職員配置

	常勤
専従看護師	1人
事務および兼任スタッフ	4人

## 活動状況

### 研修会の開催(一部紹介)

実施日	実施部署・対象	研修内容	講師	参加人数
4月	1日 新入職員全員	院内感染について	奥田 聖子	85名
	2日 新任医師	新任医師感染対策オリエンテーション	奥田 聖子	10名
	6日 看護部新人	院内感染防止対策について・パート1	奥田 聖子	19名
6月	2日 新任医師	新任医師感染対策オリエンテーション	奥田 聖子	3名
	16日 全職員	結核院内感染予防	副島 佳文	326名 433名
7月	2日 中途採用者(院内・院外問わず)	院内感染防止対策について・パート1、2	奥田 聖子	18名
	6日 看護部新人	院内感染防止対策について・パート2	奥田 聖子	17名
	30日 子供探検隊参加者	子供病院探検隊－手洗い博士になろうー	奥田 聖子	29名
8月	10日 中途採用者(院外)	中途採用者感染対策研修	奥田 聖子	13名
	17日 18日 20日 看護補助者	看護補助者研修	奥田 聖子	38名
	9月 19日 地域共同学習会	病院で流行しやすい感染症の基本的な感染対策について	奥田 聖子	46名
10月	1日 新任医師	新任医師感染対策オリエンテーション	奥田 聖子	1名
	23日 認知症型ドリームケア	ノロ・インフルエンザウィルスの感染対策について	奥田 聖子	43名
11月	5日 中途採用者(院内・院外問わず)	院内感染防止対策について・パート1、2	奥田 聖子	15名
	15日 全職員	日常生活と院内における感染防止対策について	岩村 直矢	294名 450名
	27日 すこやか介護講座	スキルアップ感染対応講座	奥田 聖子	49名



- ベストプラクティスの視聴の推進
- 感染管理地域連携相互チェック4回
- 感染管理加算を取得している保険医療機関とのカンファレンス4回

- ワクチン接種の推進  
(HBV・入職時の流行性四疾患の抗体価の確認)
- インフルエンザワクチン接種率97.3%

## 重点目標・評価と来年度への展開

2015年は院外研修や公開研修を6回開催し、全部で28回の研修を開催しました。(分散教育を含めると51回)

2016年も院内、院外研修会を充実させ医療従事者の知識と技術の向上に寄与できるように取り組みます。またHBワクチンの接種の推進、および、インフルエンザワクチンの接種率90%以上など感染が起こりにくい環境の維持に努めます。



## 学会参加発表実績

日付	学会名
2015年4月10日	感染管理セミナーin長崎 発表【長崎】
2015年4月18日	感染管理ベストプラクティス研修会 参加【大阪】
2015年5月15日・16日	ICNJ 参加【松本】
2015年6月20日	FOSS研鑽会 参加【福岡】
2015年9月3日・4日	感染対策研修会【長崎】
2015年10月2日	結核研修【佐世保】
2015年11月7日	感染管理セミナーin長崎【長崎】
2015年11月21日	FOSS研鑽会【福岡】
2015年12月5日	フォローアップ研修【福岡】
2015年12月12日	結核感染対策【佐賀】
2015年12月19日	CESP認定制度研修会【福岡】
2016年2月19日・20日	環境感染学会 参加【京都】

# 【医療安全管理部】

医療安全管理部は、専従医療安全管理者を配置し、院長直轄の独立した部門として組織内に位置します。院内で発生した事例に関して、基本的には当該部署が初期対応し、その内容によっては、医療安全管理部が検証・共有・支援を行います。

## 主な施設基準

医療安全対策加算1

## 取得認定資格

医療安全管理者……………1名

## 職員配置

医療安全管理部	常勤専従	常 勤 専 任 ・ 兼 任		非常勤数
		人数	常勤換算	
総数	1人	19人	9.5人	
診療放射線技師		1人	0.5人	
看護師(専従医療安全管理者)	1人			
事務員		1人	0.5人	
放射線技術部専任者		1人	0.5人	
臨床検査技術部専任者		1人	0.5人	
リハビリテーション部専任者		2人	1.0人	
医療事務課専任者		2人	1.0人	
健康管理部専任者		1人	0.5人	
システム開発室専任者		1人	0.5人	
医局専任者		2人	1.0人	
看護部専任者		2人	1.0人	
臨床工学部専任者		1人	0.5人	
栄養管理部専任者		1人	0.5人	
資材課専任者		1人	0.5人	
認知症疾患医療センター専任者		1人	0.5人	
薬剤部専任者		1人	0.5人	

## 活動状況

- ①医療安全教育・研修:「公開研修」および「新入職員・中途採用者対象安全研修基礎I~Ⅲ」開催
- ②安全教育教材の作成:共有事例に関するe-learning教材の作成
- ③合同研修会の開催:第13回開催(6月16日)、第14回開催(11月15日)
- ④白十字会グループ安全管理協議会の企画・運営・実施

## 重点目標・評価と来年度への展開

- ・ 患者さん(ご家族)への安全安心情報伝達
- ・ 医療安全対策加算の体制維持
- ・ 医療安全リスクコストの明確化
- ・ 医療安全管理部の体制改善
- ・ 白十字会グループ協議会における医療安全活動の推進
- ・ 職員教育の充実
- ・ 職員の安全に対する意識向上
- ・ 事例対策の評価

## 学会発表実績

学 会 名	発 表 演 題
第10回医療の質・安全学会学術集会	今、私たちがつたえること～安全教育動画の作成を通して～
日本医療マネジメント学会第16回長崎支部学会学術総会	安全教育動画作成から学ぶ事

## 院外講演(講義)活動の実績

主催および会場	演題および講演内容
総合メディカル会員セミナー(大分)	医療安全、教育訓練と実践報告
長崎県看護協会	リスクマネジャー研修Ⅰ リスク感性を磨く～日々の看護業務を通して～
長崎県立大学シーボルト校	看護管理・安全
九州文化学園高等学校衛生看護科専攻科	医療安全
九州文化学園高等学校衛生看護科	看護と安全
医師会看護学校・安全研修(卒前)	医療安全

# 【臨床研究管理部】(治験管理室)

治験管理室における治験事務局業務(治験審査委員会事務局を兼ねる)および治験コーディネーター(CRC)業務に基づいて治験を管理・支援する機能の他、臨床研究を管理・支援する機能を有し、治験による先端医療の提供・次世代の新薬開発への協力および臨床研究のサポートを通じて、社会医療法人として社会的責任の一端を果すため日々活動しています。

## 職員配置

	職 種	常 勤	非常勤	派 遣
臨床研究管理部	薬剤師	1人		
	助 手 <sup>(※1)</sup>		2人	
治験管理室	C R C <sup>(※2)</sup>			5人

(※1) リウマチ膠原病領域と糖尿病領域の研究のデータ・マネジメントを担当

(※2) CRCは、SMO(治験実施施設支援機関)との契約に基づく派遣。(治験事務局業務担当を含む。)

## 取得認定資格

JASMO公認CRC<sup>(※3)</sup>.....5名

(※3) JASMO公認CRCは、日本SMO協会が優れた資質向上を目的に、認定試験に合格したCRCを臨床試験のスペシャリストとして公認するものです。

## 活動状況

① 治 験	疾患領域	契 約 試 験 数		契 約 症 例 数		実 施 症 例 数				
		継続	新規	継続	新規	継続	新規			
関節リウマチ <sup>(※4)</sup>		継続	23	計28	継続	150	計173	継続	136	計142
		新規	5		新規	23		新規	6	
SLE		継続	4	計5	継続	10	計12	継続	7	計7
		新規	1		新規	2		新規	0	
糖尿病		継続	4	計6	継続	21	計39	継続	16	計28
		新規	2		新規	18		新規	12	
呼吸器疾患		継続	1	計2	継続	3	計4	継続	3	計3
		新規	1		新規	1		新規	0	
合 計		41		228		180				
② 新規治験スタートアップ会議の開催件数				計7回(RA:3、SLE:2、DM:2)						
③ RA・DM臨床研究のデータマネジメントに関する実績				12研究分 (1,737症例)						
④ 医薬品製造販売後調査(PMS)などの新規契約件数				年間19件						
⑤ 治験審査委員会の活動状況				年間12回(毎月1回開催)、新規試験審査数年間6試験、1回あたりの継続審査試験数平均24.2試験						
⑥ 倫理委員会の活動状況				開催数計12回(通常審査5回、迅速審査7回)、審査研究数29						
⑦ 臨床研究管理部通信(院内報)の発行実績				年間12号(毎月1回)発行						

(※4) 今期において開発中止となった5試験(契約25症例)を含む。

### ■ 臨床研究管理部の業務

1. 治験の管理および支援に係る業務
2. 臨床研究の管理および支援に係る業務
3. 医薬品製造販売後調査 (PMS) の管理および支援に係る業務
4. 治験審査委員会の運営に係る業務
5. 倫理委員会の運営に係る業務
6. 臨床研究の各種指針の教育・啓蒙に係る業務
7. その他の業務

### ■ 治験実施医療機関の要件 (GCP省令より)

- ※当院は、この要件を満たしています。
- ・十分な臨床観察・試験検査を行う設備・人員を有していること
  - ・緊急時に被験者に対して必要な措置を講ずることができること
  - ・治験審査委員会が設置されていること
  - ・治験を担当する医師、薬剤師、看護師、CRCなどの必要な職員が十分に確保されていること

## 重点目標・評価と来年度への展開

### ■ 重点目標・評価

今期の治験(継続+新規)の契約試験25件と契約症例180例を維持するとともに、RA領域の多施設共同研究を継続してサポートしました。また、臨床研究の手順書の啓蒙と運用の定着を図り、ホームページの充実に向けたリニューアルを行いました。

### ■ 2016年度への展開

来期の治験(継続+新規)の契約試験25件と契約症例180例を維持するとともに、RA領域の多施設共同臨床研究のサポートを継続して行うことに加え、新たに参加する共同研究も積極的にサポートします。また、倫理委員会の再編に伴い、適正な運用のサポートを行い定着を図ります。

## 学会・研修会への参加・開催実績

### ■ 学会・研修会への参加実績

日付	研 修 会 名
2015年9月26日	日本病院薬剤師会 治験事務局セミナー2015
2015年10月17日	臨床研究を実施・支援するための研修会
2015年10月24日	JASMO第30回継続研修会 in東京
2016年2月20日	JASMO第31回継続研修会 in大阪



# 【事務部】

## ◎医療事務課

「病院の顔」として、最初(受付)と最後(会計)に患者さんと接し、病院の印象を左右する部署であり、常に「おもてなしの心」を忘れずに患者さんと接するように努めています。また、診療費請求においても、迅速かつ正確な請求ができるように、日々、努めています。

2015年度目標は、『接客向上』であり、「笑顔・心を込めて言葉を添えて」をスローガンとし、現在の接客に「おもてなしの心」を込めて患者さんへのサービス向上に繋がるよう取り組みました。

## ◎診療情報管理課

さまざまな情報を一元管理し、業務の効率化を図り、診療情報を安全に管理することを重視し、医療の質の向上を図るとともに診療情報の点検ならび有効活用、提供などに努めています。

### 職員配置

	常勤	非常勤
医療事務課	37人	9人
診療情報管理課	4人	

### 取得認定資格

ホスピタルコンシェルジュ(3級)……………16名  
 診療情報管理士……………8名  
 医療秘書技能検定(準1級)……………1名  
 医療秘書技能検定(2級)……………8名  
 医療秘書技能検定(3級)……………7名  
 診療報酬請求事務能力認定試験……………5名  
 医療対話推進者……………1名

### 医療事務課業務内容

外来 医事 係	受付	患者さんの状況を確認しながら、迅速かつ的確な受付を行っています。
	コールセンター	「声で笑顔を伝える」をモットーに、診療科と連携を取り予約受付を行っています。
	オペレーター	外来患者さんの診療費計算を迅速かつ正確に行っています。
	会計	窓口での支払いや医療費相談の対応、日々の会計管理を行っています。
	書類	書類作成システム(パピルス)を活用し、書類依頼・発行・交付業務を行い、各種公費申請の手続きを行っています。特定疾患更新時期には約700件の処理を行っています。
入院 医事 係	未収	請求・入金・未払金額の管理をし、未払者の対応を行います。また、入院時預り金の管理、入院予定患者さんへの高額療養費や限度額認定証などの情報提供を行っています。
		退院前日の患者さんへ概算入院診療費のお知らせを行います。また、入院中の患者さんに対し限度額適用認定証の説明や、診療費に関してのご相談も随時行っています。DPCに係るデータの提出を厚生労働省へ行っています。

### 診療情報管理課業務内容

院内外の各種調査やアンケートに対するデータ提出や原価計算を用いたクリティカルパスの検証を行っています。
---

## 課内におけるワーキンググループ

顧客満足 の視点チーム	職員間の感謝の気持ちを伝える「和レター」を始めとし、朝礼時の接遇練習やクリスマスコンサートなどの季節ごとの行事にも力を入れ、患者サービス向上や職員間のコミュニケーションを円滑にするために活動を行っています。また、主な検査料金などを記載した「診療費料金表」を各部署に常備し、その作成・更新を行っています。診療科などの要望に応じて、随時診療費料金表を追加・訂正しています。
査定対策 チーム	レセプトのチェック漏れを防ぐ事を目的とし、査定結果を分析し、分析結果や注意事項を課内で共有する活動を行っています。
財務・病院機能 の視点チーム	正確な請求を行うために、月ごとに請求誤りの報告をし、個別指導や勉強会を行っています。
学習と成長の 視点チーム	専門知識向上を目指し、課内での有資格者による勉強会や他部署の方への研修を行っています。

## 重点目標・評価と来年度への展開

## ■ 広報誌発行と多職種協働

職員に医療制度や診療報酬点数に関する情報提供を行い、医療事務課の活動内容を広報・周知するために広報誌を発行しました。また、患者さん向けの広報も展開いたしました。2016年度は多職種協働を掲げ、さまざまなことに参画し、診療部をはじめとする医療業務のスムーズな運営ならびに環境整備に努めたいと思います。

## ■ 保険診療説明会(全職員対象)

当院は「臨床研修指定病院」です。臨床研修病院入院診療加算を算定するにあたり、全職員を対象に年2回以上「保険診療に関する講習」を開催することが義務付けられています。2015年度は、7月24日・3月30日に開催しました。

## ■ 病棟訪室・退院支援カンファレンスへの参加

患者さん・ご家族の不安解消に少しでも繋がればとの思いから新たに『ご入院された患者さんの元へ医療事務課職員が訪室し、高額療養費の案内や療養中の質問・相談などを伺うこと』に取り組んでいます。また、看護部ならびに多職種協働で開催される退院支援カンファレンスにも参加しています。

2016年度は2015年度と同様に診療部門との連携を深め、診療報酬におけるさまざまな情報提供はもちろん、事務職の専門知識を活かし、診療部支援ができる存在であり続けるように努めます。また、患者さんに対しても、役立つ情報の提供をしていきたいと思っています。



## ◎医局秘書課

電話交換、医局受付、病歴管理(物的)、医療情報プラザ(図書室)運営、ドクター秘書業務、糖尿病センター秘書業務、安全管理部・感染対策室補佐業務を行っています。医療情報プラザは患者図書室として、患者さんがご自分の病気の理解を深め、治療に参加していただくことをコンセプトに、患者さん向けの医学書を設置しています。

また、当部署は医師の様々なサポートをしています。特にドクター秘書は、医師の医療行為に付随する事務的作業のほとんどを担っており、医師の負担軽減に貢献しています。

### 主な施設基準

医師事務作業補助体制加算2 15対1

### 職員配置

	常勤	パート職員
事務職	6人	3人
事務職(医療情報プラザ)		1人
ドクター秘書	2人	33人
計	8人	37人
総数	45人	

### 取得認定資格

ドクターズクラーク……………17名  
 医療事務管理士……………5名  
 医療事務技能審査(2級)……………1名  
 診療報酬請求事務能力認定……………1名  
 ホスピタルコンシェルジュ(3級)……………1名  
 秘書技能検定(準1級)……………2名  
 秘書技能検定(2級)……………21名  
 サービス接遇検定(2級)……………1名  
 介護事務管理士……………1名  
 調剤事務管理士……………2名  
 メンタルヘルスマネジメントⅡ種……………1名  
 電話検定知識A級……………1名

### 活動状況

#### 電話交換業務

2015年度着信本数(平日のみ)	69,325件
お待たせコール作動本数(5回コールにて作動)	377件

#### ドクター秘書業務

退院サマリー	4,156件/年
書類・診断書	8,974件/年
症状詳記	289件/年
NCD(手術登録)	1,137件/年



診療補助(電子カルテの代行入力)の様子

### 医療情報プラザ

#### 利用状況

利用者数	4,181人
貸出数(医学書)	385冊
貸出数(一般図書)	1,576冊
プラザ用医学書購入数	28冊

開館：平日 9:00~12:00 13:00~17:00

第3土曜日 9:00~12:00

医療情報プラザでは、来館が困難な入院患者さんやご家族にもご利用いただけるよう、本のデリバリーサービスを行なっています。また、来館者にくつろげる環境を提供するために、季節を感じられるような飾り付けなども工夫しています。



### 重点目標・評価と来年度への展開

2015年度は、電話交換業務のスキルアップに努めました。勉強会ではさまざまなパターンの状況を想定し、交換手役と患者さん(家族)役になって対応することにより、更に良い対応方法や望ましい言葉の使い方などを改めて見直すことが出来ました。2016年度も更なるスキルアップを目指していきます。また、ドクター秘書の連携体制を一新し、どのような状況でも対応できるオールマイティな人材育成に力を入れたいと考えています。

## ◎資材課

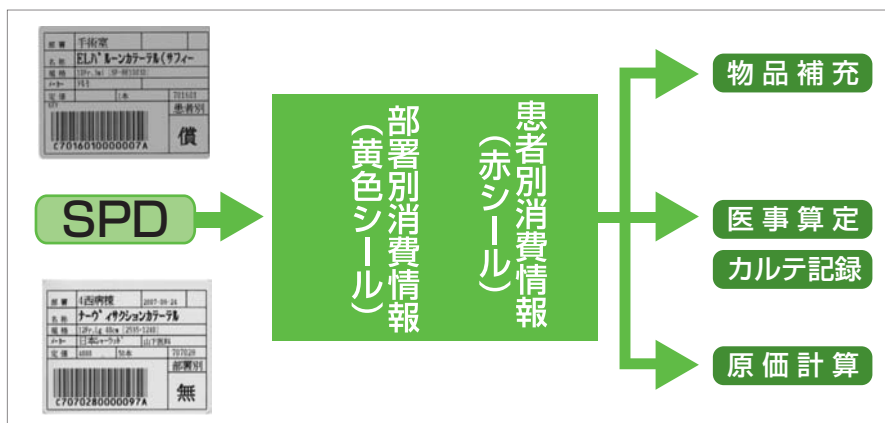
法人内(佐世保地区)で使用する全ての医療材料・消耗品・印刷物・医療機器などの購入(いわゆるバイヤー業務)を担当している部署です。法人唯一の購買担当・物品管理部署として、正確かつ迅速な物品供給業務を行っています。

また、適正なコスト管理・在庫管理にも力を入れており、業務の合理化およびコスト削減、コストパフォーマンスの向上を推進しています。

当法人ではSPDシステムを導入しており、物品や業務の標準化・物流の効率化を図り、購買情報・在庫情報・消費情報の一元管理が可能となっています。SPDシステムは2003年より導入し、当時は外部委託運用なしの院内SPDで既存ベンダーパッケージを採用していました。

その後、電子カルテ体型のSPDシステムの開発を模索し、2007年に自社開発の新電子カルテシステム「HOMES」と連動した独自の新SPDシステムが稼働しました。新SPDシステムでは、消費(物品使用)を登録する事で、補充だけではなく電子カルテへの記録、医事算定、原価計算との連動が可能となっています。

### 消費(物品使用)情報の流れ



## 職員配置

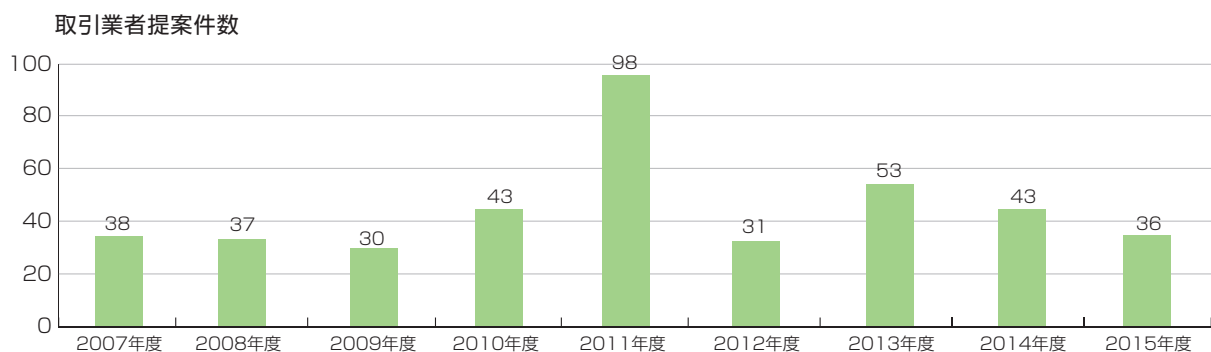
資材管理本部長	主任	副主任	課員	合計
1人	1人	1人	4人	7人

## 活動状況

### ■トータルコストダウン活動について

2002年度よりトータルコストダウン活動を継続的に推進しています。しかし、資材課職員による交渉のみではコストダウンに限界があるため、取引業者からの新商品・同等品提案や、職員からの提案を広く受け付けています。職員や協力会社を巻き込んで「良いものをより安く」調達することにより、より高いコストパフォーマンスを追求しています。

これまでの取引業者からの提案件数およびコストダウン実績は以下の通りです。



## ■コストダウン実績

単位：円

	資 材	施 設	合 計	目 標	達成率
2003年度	11,610,577	1,150,060	12,760,637	12,000,000	106%
2004年度	7,455,839	4,984,400	12,440,239	8,000,000	156%
2005年度	22,234,222	13,579,270	35,813,492	12,000,000	298%
2006年度	29,001,476	1,429,850	30,431,326	10,000,000	304%
2007年度	11,494,506	1,313,200	12,807,706	10,000,000	128%
2008年度	5,253,240	2,405,000	7,658,240	7,000,000	109%
2009年度	7,379,245	0	7,379,245	6,000,000	123%
2010年度	6,133,323	0	6,133,323	6,000,000	102%
2011年度	7,435,757	0	7,435,757	6,000,000	124%
2012年度	5,687,719	0	5,687,719	5,000,000	114%
2013年度	5,075,575	0	5,075,575	5,000,000	102%
2014年度	6,149,195	0	6,149,195	4,000,000	153%
2015年度	6,101,662	0	6,101,662	4,500,000	135%

## 重点目標・評価と来年度への展開

2015年度は増改築工事が終了したこともあり、落ち着いた一年となりました。業務改善の取り組みの中で、現場を知るために心臓血管外科の手術を見学しました。医療材料や医療機器がどのように使用されているのかを実際に見ることで、物品の選定や取り扱いの際に有用な知識を得ることができました。現場を理解した上で適切な物品管理および供給ができるよう今後も他部署見学を行います。

2016年度は診療報酬改定があり、医療材料などの価格が大きく変動することが予想されます。経営面ではしっかりコストを抑えながらも、高機能高品質の物品選定と効率的な物品供給に努め、医療の質の向上に貢献できるよう取り組みます。



## ◎施設課

患者さんや職員の方々が安全快適に過ごしていただけるよう災害安全対策や院内外設備（電気設備、空調設備、防災設備）などの維持管理業務を行っています。また公用車運用管理や送迎業務を行っています。

### 職員配置

施設管理本部	施設管理室	施設課	
1人	1人	9人	
		設備管理員(5名)	車両管理員(4名)

### ■設備管理

院内外すべての設備機器の管理およびメンテナンス業務を行い、常に監視し不具合などの早期発見に努めています。また地球温暖化を意識した省エネ機器の新規導入や適正な設備運用にも心がけています。

空調設備：防災センターより主要空調の一括監視および操作、定期的なメンテナンス業務を行っています。

衛生設備：最新の衛生器具の管理および給排水設備のメンテナンスを行っています。

電気設備：デマンド制御により電力の管理および省エネ対策としてLED化の推進を行っています。

防火防災設備：院内の防火設備メンテナンスと年間を通し防火訓練と防災訓練の指導を行っています。

営繕・修理：上記の設備以外でも建物の修繕や、職員からの修理依頼なども行っています。

### ■車両管理

公用車・駐車場の維持管理および整備を行い、当院をご利用にされる方々や医師ならびに職員の送迎も行っています。

### ■防火・防災・防犯対策

防火・防災対策：防火避難訓練（年4回）、地震避難訓練（年1回）、大規模災害訓練（年1回）、防火教育

防犯対策：セキュリティーの強化としてガードマンの増員配備、管理区域の電子施錠、防犯カメラの設置

### ■環境対策

#### 1.感染症対策

各病棟には、気化式埋込型加湿装置を導入設置しインフルエンザ予防対策に努めています。また南館1階に設置している感染外来をはじめ各病棟には、陰圧の部屋を設置し院内感染予防にも努めています。

#### 2.省エネ対策

佐世保中央病院は、2008年の省エネ改正により第2種エネルギー管理指定工場とされ省エネルギーに努めることになりました。

#### 省エネ活動

- ・省エネ委員会の設立
- ・デマンド制御による電力の管理
- ・LED化の推進
- ・適切な空調管理・運用
- ・省エネの啓蒙（全体研修講演）など

患者さんの入院生活や職員の業務に支障がないよう心がけて取り組んでいます。

### 重点目標・評価と来年度への展開

ミッション：白十字会の施設（建物・設備）を利用する人々（顧客）のために、良質な施設とサービスを効率的に提供する。

ビジョン：時代のニーズに的確に対応し、ミッションを全うするために、施設課の組織と施設課職員の能力を常に高める。

## ◎システム開発室(法人本部:医療情報本部)

システム開発室は白十字会グループの医療情報本部に所属し電子カルテをはじめとした医療情報システムの開発/運用、法人各施設およびグループ施設のICT(情報通信技術/設備)に関する業務分析、システム設計、プログラム製造/改修、システム運用/管理を行っています。

### 職員配置

常勤	事務	出向	合計
11人	1人	1人	13人

### 取得認定資格

資格	資格	人数
ICTプロフィシエンシー検定試験(旧パソコン検定)	ICTプロフィシエンシー検定協会(旧パソコン検定協会)	1名
初級医療情報技師	JAMI(一般社団法人医療情報学会)	5名
応用情報処理技術者	IPA(独立行政法人情報処理推進機構)	3名
医療情報システム監査人	MEDIS-DC(一般財団法人医療情報システム開発センター)	1名
秘書検定2級	公益財団法人実務技能検定協会	1名
ITパスポート	IPA(独立行政法人情報処理推進機構)	1名

### 活動状況

#### ■佐世保中央病院

- ◎HOMESノート端末・デスクトップ端末更新
  - ・Windows7、ノート40台、デスクトップ300台
- ◎開発環境 64bit化
- ◎アンケート実施

- ◎業務依頼の共通化
- ◎職員向け操作説明ビデオの制作
  - ・11本
- ◎他施設訪問
  - 他施設のPCの管理
- ◎HOMES端末適正化
  - ・稼働時間集計
- ◎セキュリティ情報揭示
  - ・月1回のセキュリティ情報揭示

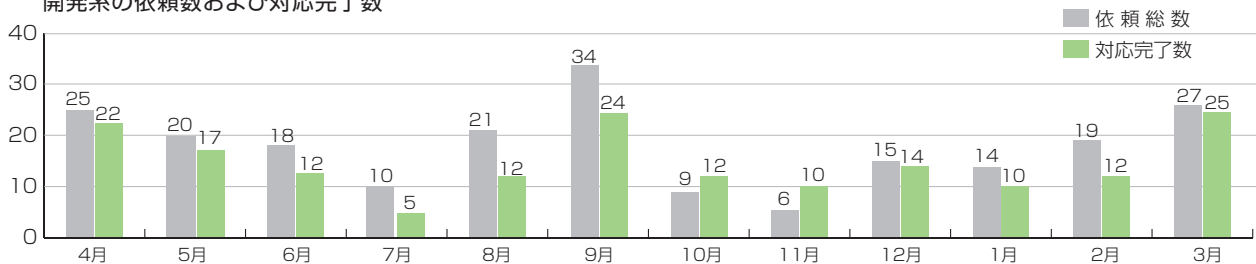
### 重点目標・評価と来年度への展開

- ◎最新の開発環境構築およびプログラムの移植作業
- ◎生体認証技術の検証・評価
- ◎データ二次利用環境の整備および情報の提供
- ◎介護システム一元化に向けた作業計画策定

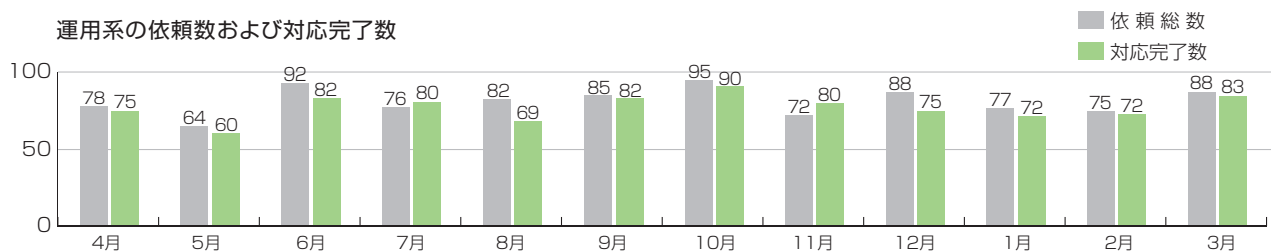
#### ■学会・研修会への参加実績

学会・研修会等
第19回 日本医療情報学会春季学術大会
第35回 医療情報学連合大会
第17回 日本医療マネジメント学会

開発系の依頼数および対応完了数



運用系の依頼数および対応完了数



## ◎総務室・財務室・人事管理室・広報室

2015年4月に総務室・財務室が再編され、新たに広報室が新設されました。業務内容ですが、法人本部機能を有するため、佐世保中央病院のみならず法人全体の業務も行っています。総務室では各種労務管理・各種手続き・福利厚生・契約業務などを担当しています。財務室では、給与計算・現金・預貯金管理業務、収支月表作成、収益の計上、各種経営資料の作成、企業年金基金などの業務を担当しています。人事管理室では、人事考課・各種研修を担当しています。

広報室は、地域住民の方に信頼され、愛され、支持されるために、白十字会の取り組みを積極的に発信していくことが広報室のミッションです。具体的には、パブリシティや広報誌・ウェブサイトなどの広報媒体の校閲、理事長の出前講座などを行っています。

### 職員配置

	常勤	非常勤
総務室	4人	1人
財務室	8人	1人
人事管理室	2人	
広報室	2人(兼務1人)	
総数	15人	2人

### 取得認定資格(今年度取得者)

ビジネスキャリア検定(3級)……………1名  
 ビジネス文書検定(3級)……………1名  
 サービス接遇検定(2級)……………1名  
 サービス接遇検定(3級)……………2名  
 パソコン検定(3級)……………1名  
 パソコン検定(4級)……………1名

### 活動状況

#### ■広報関連

広報室設置に伴い「総務室・財務室・人事管理室ニュース」がVOL25をもって、廃刊となり、法人広報は広報室に引き継がれました。広報室では、メディア掲載情報を随時イントラに掲載して法人の各種活動を紹介しています。

#### ■福利厚生関連

職員の皆さんに喜んでもらえて利用しやすい福利厚生制度を目指して、色々なサービスを提供しています。「白十字むつみ会」では、恒例となっているレクリエーションを2015年6月17日、佐世保東部スポーツ広場体育館にて「ソフトバレーボール大会」を開催し、法人内各施設より225名の職員が参加しました。

また、「えらべる倶楽部」では、宿泊補助、映画鑑賞補助やジェフグルメ券補助など、白十字会オリジナル特典もあり、多種多様なサービスを受けることが

できます。より多くの職員に利用してもらおうと、2～3月に各施設で説明会を開催しました。

佐世保地区独身寮「祇園寮」の20室を改築工事しました。居室が、これまでの畳からフローリングへと一新され、流し台やユニットバス、居室ドアも新調され、新築のようにきれいになりました。

#### ■各種研修の開催

人事管理室では、『人財』育成のため、それぞれの立場に応じた各種研修を開催しています。

- ・階層別研修
  - 新入職員研修、フォローアップ研修(1年次、2年次、3年次)
- ・OJT研修(新入職員担当者を対象とした研修)
- ・新指導者研修、フォローアップ研修(前期・後期)
- ・リーダー研修(所属長・部門長から推薦のあった者を対象とした研修)
  - 初級、中級
- ・監督者研修(監督の任に携わっている者を対象とした研修)
- ・管理者研修(管理の任に携わっている者を対象とした研修)
- ・選択型研修

#### 重点目標・評価と来年度への展開

福利厚生制度「えらべる倶楽部」スタートから1年がたちましたが、利用率が約33%と予想していたより低い結果となりました。一人でも多くの職員に利用してもらえよう、解りやすいパンフレットを作成し、また、キャンペーンや説明会も随時開催する予定です。

# 【地域医療連携センター】

当院は、地域の医療機関との連携を深め、より一層地域医療の充実を図るため、地域の医療機関に入院病床やCT・MRIなどの医療機器を開放し共同で利用することができる「開放型病院」として、また地域の医療機関からご紹介いただいた患者さんに、より詳しい検査や専門的な治療をおこなう「地域医療支援病院」として運営を行っています。

地域の医療機関からの紹介患者様の診療予約サービスや、開放型病床における共同指導、地域の医療機関に広く情報を提供するメディカルネット99とよばれるシステムの運用などを通して、患者さんの診療情報を地域医療機関と共有し、より円滑な紹介受入れ、当院から地域医療機関へ患者さんのご紹介を行うことで、地域住民の皆様が一貫した診療体制の中で安心して治療していただけるよう努力しております。また、退院後も安心して生活していただけるよう、医療ソーシャルワーカーが、介護保険などの各種制度のご案内や各種の医療福祉施設のご紹介、また経済的なご相談をお受けするなど、患者さんを支援しています。

また、地域連携パスの実施状況、ベッド稼働の状況などの各種データ統計も地域医療連携センターの重要な役割であり、合わせて紹介患者いかに問わず当日の入院依頼におけるベットセンターの機能も有しています。

## 職員配置

医 師	看 護 師	医療ソーシャルワーカー	事務職員	合 計
1人(兼任)	1人	7人	6人	15人

## 活動状況

紹介率など各種の統計についてはP37病院統計をご覧ください。

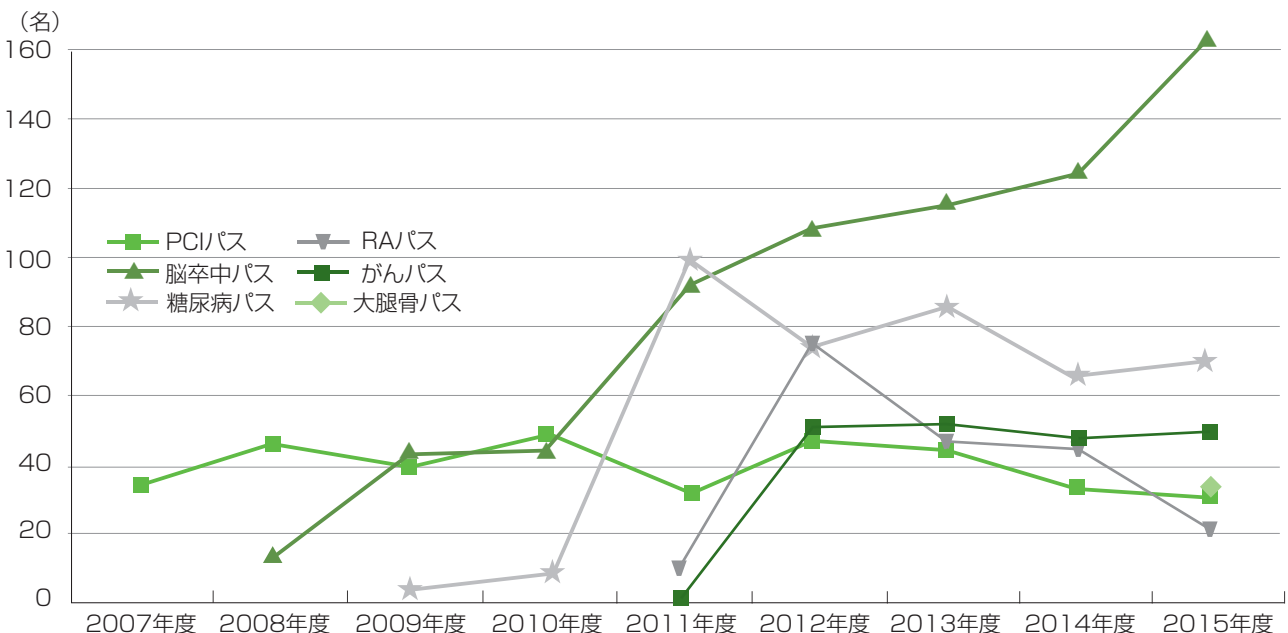
## 重点目標・評価と来年度への展開

2015年度は在宅支援診療所との関係をさらに強化

すべく、当院の職員を対象に「在宅医療の実際を現場に携わる先生方から学ぼう」をテーマとし、2015年8月27日に講演会を開催しました。今後も入院希望患者さんの事前情報をいただきながら、在宅医療を推し進めていきます。

2016年度から退院支援チームの活動では、MSWが各病棟に専任で配置され退院支援・地域連携業務に従事することにより、早期に患者さんの問題解決に介入することができ、退院支援の積極的な取り組みができるように活動していきます。

## ■地域連携パス新規導入患者数推移



	運用開始時期	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	計
P C I パス	2006年5月	20	26	43	40	44	33	45	43	33	31	358
脳卒中パス	2009年2月			17	42	42	92	108	114	131	162	708
糖尿病パス	2009年8月				5	8	96	75	81	65	70	400
R A パス	2011年7月						8	77	42	43	21	191
ガンパス	2012年3月						1	49	49	47	49	195
大腿骨パス	2015年8月										34	34
<b>合計</b>		<b>20</b>	<b>26</b>	<b>60</b>	<b>87</b>	<b>94</b>	<b>230</b>	<b>354</b>	<b>329</b>	<b>319</b>	<b>367</b>	<b>1,886</b>

P C I パス：2015年度も例年並みで推移

脳卒中パス：脳外ホットライン当番で症例数の増加に伴い上昇傾向

糖尿病パス：2015年度は導入数が若干増加

R A パス：2015年度は導入数が昨年度の半数に減少

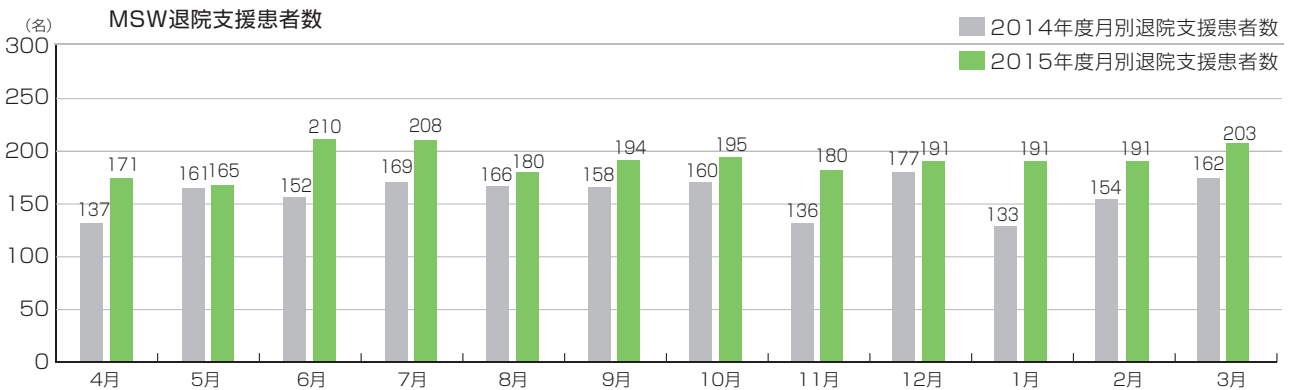
ガンパス：2015年度も例年並みで推移、乳がんパスが主体

大腿骨パス：2015年8月より開始

## MSW活動報告

### MSW退院支援介入件数

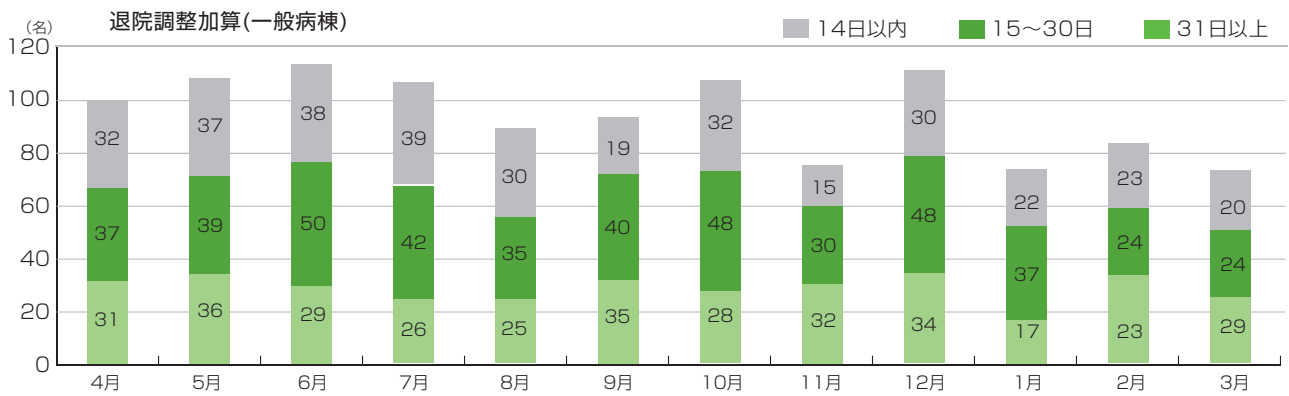
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2014年度退院支援患者数	137	161	152	169	166	158	160	136	177	133	154	162	1,865
2015年度退院支援患者数	171	165	210	208	180	194	195	180	191	191	191	203	2,279



### 退院調整加算(一般病棟)

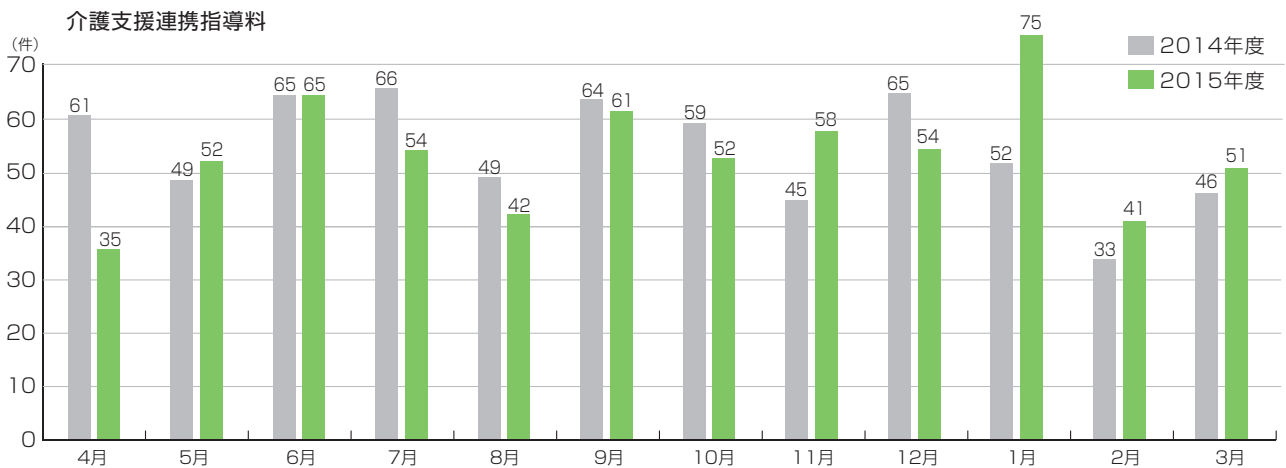
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2014年度	14日以内	32	37	38	39	30	19	32	15	30	22	23	20	337
	15日～30日	37	39	50	42	35	40	48	30	48	37	24	24	454
	31日以上	31	36	29	26	25	35	28	32	34	17	35	29	357
	合計	100	112	117	107	90	94	108	77	112	76	82	73	1,148
2015年度	14日以内	33	30	41	32	34	30	28	24	35	29	23	30	339
	15日～30日	39	37	46	59	46	38	41	46	43	37	38	39	470
	31日以上	30	36	46	33	34	31	35	20	39	34	46	40	384
	合計	102	103	133	124	114	99	104	90	117	100	107	109	1,193





## 介護支援連携指導料

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総計
2014年度	61	49	65	66	49	64	59	45	65	52	33	46	654
2015年度	35	52	65	54	42	61	52	58	54	75	41	51	640



## 患者相談実績

患者数	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
合計	1,768	1,598	1,873	1,865	2,004

(相談患者実数)

患者相談内容	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
① 経済的相談	150	198	121	111	135
② 生活の場の設定相談	25	56	301	440	448
③ 転院相談	702	708	709	959	957
④ 在宅療養の相談	561	584	1,144	1,416	1,319
⑤ 受診・受療相談	96	103	186	230	194
⑥ 疾病理解・傷害受容相談	66	71	65	141	158
⑦ 人権に関する相談	99	89	31	87	79
⑧ 就労・教育・社会復帰相談	38	40	25	45	62
⑨ 心理相談	484	587	632	957	1,324
⑩ 関係機関(者)との調整相談	2,231	2,251	2,893	3,231	3,688
⑪ 医療福祉制度相談	1,280	1,180	1,420	731	1,256
⑫ がん・難病疾患相談	1,268	1,346	1,422	1,321	1,456
合計	7,000	7,213	8,949	9,669	11,076

(相談延べ件数)

# 【健康管理部】(健康増進センター)

佐世保中央病院に併設された施設で、2002年に白十字会医療社会事業部から現在の健康増進センターへ移行しました。健康診断の専門施設として、ゆとりのある空間での快適な受診環境が整備されています。

ドック基本項目の上部消化管検査と乳がん子宮がん検診などを除いては、ワンフロアで受診可能な環境となっています。人間ドック健診をはじめ、さまざまな健診において、日本消化器病専門医、日本医学放射線学会専門医、日本内科学会認定内科医、検診マンモグラフィ撮影認定診療放射線技師など、各専門スタッフが担当し、健診の質の確保を図っています。

また2008年12月に運営の合理性など、第三者による客観的な評価として、人間ドック学会の健診施設機能評価を認定取得し、さらに2015年4月には、認定更新が承認されました。

これからも業務内容と環境の両面での見直しを行い、利用者目線で質とサービスの向上に取り組んでいきます。

## 認定施設

人間ドック学会健診施設機能評価(Ver.3)認定施設  
人間ドック学会専門医研修指定施設  
マンモグラフィ検診画像認定施設  
健康保険組合連合会指定健診施設  
全国健康保険協会管掌健診指定施設

## 職員配置

	常 勤	非常勤
医 師	4人	2人
保 健 師	5人	1人
看 護 師	2人	1人
そ の 他 の 職 員	5人	9人
合 計	16人	13人

\*健診事業において、本院の医師および臨床検査技師、放射線技師の支援を受けている。

## 活動状況

### 健診コース別受診者数

健 診 種 類	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
協 会 管 掌	一 般 健 診	63	209	253	149	106	171	400	260	340	309	205	40	2,505
	付 加 健 診	2	6	12	5	1	9	32	13	29	17	14	3	143
	肝 炎 婦 人 科 検 診	2	18	16	8	12	14	18	51	42	25	25	1	232
人 間 ド ッ ク	1 日 ド ッ ク	67	83	91	137	173	152	109	104	148	163	204	157	1,588
	2 日 ド ッ ク	6	9	19	40	55	35	28	35	36	20	24	29	336
	レディースドック				25	42	36	23	18	24	24	18		210
	肺 ド ッ ク				28	41	39	12	14	16	11	15		176
健 康 診 断	定 期 健 診	70	53	143	217	108	88	117	74	94	51	93	68	1,176
	成 人 病 健 診	58	38	64	26	27	61	51	56	31	13	18	9	452
	そ の 他	12	5	10	13	9	10	19	9	20	7	14	16	144
	職 員	482	359	583	417	7	20	204	62	137	180	22	22	2,495
佐 世 保 市 関 連	国 保 脳 ド ッ ク						12	7	8	8	8	5	48	
	胃 癌 検 診	141	81	103	132	113	114	119	106	101	98	117	146	1,371
	肺 癌 検 診	67	30	95	121	99	104	99	107	95	89	124	140	1,170
	子 宮 癌 検 診	111	45	87	104	84	77	123	128	93	79	135	183	1,249
	乳 癌 検 診	138	59	97	110	94	85	123	129	103	84	155	216	1,393
	大 腸 癌 検 診	72	35	100	127	103	120	116	121	105	97	137	174	1,307
	前 立 線 癌 検 診	15	8	42	42	36	45	29	30	34	33	39	49	402
特 定 健 診		5	74	84	62	59	66	59	59	54	76	99	697	
実 績 件 数	1,087	1,043	1,789	1,785	1,172	1,239	1,700	1,383	1,515	1,362	1,443	1,357	16,875	